

第2章 患者調査

1 調査施設

平成23年に調査を実施した施設は、病院54施設である。

「島根県患者調査」は、平成14年までは厚生労働省が実施する抽出調査に加え、ほぼ全医療機関で調査を実施していた。平成17年、平成20年について、病院は全数調査、一般診療所と歯科診療所は国の調査に準じて指定された施設のみ調査を実施したが、平成23年から病院のみの全数調査とした（表2-1）。

表2-1 調査対象施設数及び実施施設数

	平成17年			平成20年			平成23年		
	医療施設数	調査実施施設数	調査率(%)	医療施設数	調査実施施設数	調査率(%)	医療施設数	調査実施施設数	調査率(%)
総数	1,112	189	17.0	1,087	182	16.7	1,068	54	5.1
病院	58	58	100.0	57	57	100.0	54	54	100.0
一般診療所	762	106	13.9	745	101	13.6	732	—	—
歯科診療所	292	25	8.6	285	24	8.4	282	—	—

注1 医療施設数は、「医療施設調査」(厚生労働省)による。平成23年は、平成23年10月1日現在の施設数。

2 調査実施施設数は、医療施設数から休診等の調査不能施設数や特別養護老人ホームの診療所で外来患者がなかったもの等を除外したものである。

2 患者数

調査当日に病院で受療した患者総数は、18,824人である。

(1) 入院－外来別

入院－外来別にみた患者数は、入院9,429人、外来9,395人である。

また、患者数の年次推移をみると、外来は平成8年をピークに、入院は平成11年をピークに減少している（表2-2）。

表2-2 年次別・入院－外来別患者数、構成割合（病院）

調査年	患者数(人)			構成割合(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
昭和48年	14,830	7,120	7,710	100.0	48.0	52.0
昭和53年	15,132	7,131	8,001	100.0	47.1	52.9
昭和59年	16,638	7,200	9,438	100.0	43.3	56.7
平成2年	21,839	9,889	11,950	100.0	45.3	54.7
平成5年	23,018	9,912	13,106	100.0	43.1	56.9
平成8年	24,812	10,304	14,508	100.0	41.5	58.5
平成11年	24,013	10,579	13,434	100.0	44.1	55.9
平成14年	22,434	10,329	12,105	100.0	46.0	54.0
平成17年	21,401	10,393	11,008	100.0	48.6	51.4
平成20年	19,832	9,622	10,210	100.0	48.5	51.5
平成23年	18,824	9,429	9,395	100.0	50.1	49.9

(2) 性・年齢階級別

性別の患者数をみると、男8,548人、女10,274人である。

年齢階級別患者の構成割合を入院でみると、男で最も高いのは75～79歳で全体の15.2%を占める。女で最も高いのは85～89歳で16.5%を占める。外来については、75～79歳が男女ともに最も高く、男は全体の12.3%、女は12.6%を占める（表2-3、表2-4）。

表 2－3 性・年齢階級・入院－外来別患者数（病院）

（単位：人）

年齢階級	総数				入院				外来			
	総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳
総数	18,824	8,548	10,274	2	9,429	4,287	5,142	-	9,395	4,261	5,132	2
0歳	203	99	104	-	81	42	39	-	122	57	65	-
1歳	109	59	49	1	17	10	7	-	92	49	42	1
2歳	65	39	26	-	7	2	5	-	58	37	21	-
3歳	56	32	24	-	5	1	4	-	51	31	20	-
4歳	55	36	19	-	8	3	5	-	47	33	14	-
1～4歳	285	166	118	1	37	16	21	-	248	150	97	1
5～9歳	244	143	101	-	37	17	20	-	207	126	81	-
10～14歳	195	111	84	-	48	28	20	-	147	83	64	-
15～19歳	223	113	110	-	74	44	30	-	149	69	80	-
20～24歳	214	79	135	-	79	28	51	-	135	51	84	-
25～29歳	424	118	306	-	128	41	87	-	296	77	219	-
30～34歳	492	174	318	-	177	71	106	-	315	103	212	-
35～39歳	508	208	300	-	169	84	85	-	339	124	215	-
40～44歳	513	240	273	-	171	82	89	-	342	158	184	-
45～49歳	530	265	265	-	200	114	86	-	330	151	179	-
50～54歳	714	378	336	-	282	160	122	-	432	218	214	-
55～59歳	1,154	646	508	-	519	327	192	-	635	319	316	-
60～64歳	1,772	958	814	-	812	484	328	-	960	474	486	-
65～69歳	1,510	808	702	-	691	399	292	-	819	409	410	-
70～74歳	1,812	903	909	-	853	437	416	-	959	466	493	-
75～79歳	2,484	1,174	1,309	1	1,313	651	662	-	1,171	523	647	1
80～84歳	2,313	1,003	1,310	-	1,397	611	786	-	916	392	524	-
85～89歳	1,864	621	1,243	-	1,253	403	850	-	611	218	393	-
90～94歳	975	270	705	-	756	191	565	-	219	79	140	-
95～99歳	319	62	257	-	284	49	235	-	35	13	22	-
100歳以上	71	7	64	-	67	7	60	-	4	-	4	-
不詳	5	2	3	-	1	1	-	-	4	1	3	-
65歳以上(再掲)	11,348	4,848	6,499	1	6,614	2,748	3,866	-	4,734	2,100	2,633	1
70歳以上(再掲)	9,838	4,040	5,797	1	5,923	2,349	3,574	-	3,915	1,691	2,223	1
80歳以上(再掲)	5,542	1,963	3,579	-	3,757	1,261	2,496	-	1,785	702	1,083	-

表 2－4 性・年齢階級・入院－外来別患者数及び構成割合（病院）

（単位％）

年齢階級	総数			年齢階級	総数				入院				外来			
	総数	入院	外来		総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳
総数	100	50.1	49.9	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0
0歳	100	39.9	60.1	0歳	1.1	1.2	1.0	-	0.9	1.0	0.8	-	1.3	1.3	1.3	-
1歳	100	15.6	84.4	1歳	0.6	0.7	0.5	50.0	0.2	0.2	0.1	-	1.0	1.1	0.8	50.0
2歳	100	10.8	89.2	2歳	0.3	0.5	0.3	-	0.1	0.0	0.1	-	0.6	0.9	0.4	-
3歳	100	8.9	91.1	3歳	0.3	0.4	0.2	-	0.1	0.0	0.1	-	0.5	0.7	0.4	-
4歳	100	14.5	85.5	4歳	0.3	0.4	0.2	-	0.1	0.1	0.1	-	0.5	0.8	0.3	-
1～4歳	100	13.0	87.0	1～4歳	1.5	1.9	1.1	50.0	0.4	0.4	0.4	-	2.6	3.5	1.9	50.0
5～9歳	100	15.2	84.8	5～9歳	1.3	1.7	1.0	-	0.4	0.4	0.4	-	2.2	3.0	1.6	-
10～14歳	100	24.6	75.4	10～14歳	1.0	1.3	0.8	-	0.5	0.7	0.4	-	1.6	1.9	1.2	-
15～19歳	100	33.2	66.8	15～19歳	1.2	1.3	1.1	-	0.8	1.0	0.6	-	1.6	1.6	1.6	-
20～24歳	100	36.9	63.1	20～24歳	1.1	0.9	1.3	-	0.8	0.7	1.0	-	1.4	1.2	1.6	-
25～29歳	100	30.2	69.8	25～29歳	2.3	1.4	3.0	-	1.4	1.0	1.7	-	3.2	1.8	4.3	-
30～34歳	100	36.0	64.0	30～34歳	2.6	2.0	3.1	-	1.9	1.7	2.1	-	3.4	2.4	4.1	-
35～39歳	100	33.3	66.7	35～39歳	2.7	2.4	2.9	-	1.8	2.0	1.7	-	3.6	2.9	4.2	-
40～44歳	100	33.3	66.7	40～44歳	2.7	2.8	2.7	-	1.8	1.9	1.7	-	3.6	3.7	3.6	-
45～49歳	100	37.7	62.3	45～49歳	2.8	3.1	2.6	-	2.1	2.7	1.7	-	3.5	3.5	3.5	-
50～54歳	100	39.5	60.5	50～54歳	3.8	4.4	3.3	-	3.0	3.7	2.4	-	4.6	5.1	4.2	-
55～59歳	100	45.0	55.0	55～59歳	6.1	7.6	4.9	-	5.5	7.6	3.7	-	6.8	7.5	6.2	-
60～64歳	100	45.8	54.2	60～64歳	9.4	11.2	7.9	-	8.6	11.3	6.4	-	10.2	11.1	9.5	-
65～69歳	100	45.8	54.2	65～69歳	8.0	9.5	6.8	-	7.3	9.3	5.7	-	8.7	9.6	8.0	-
70～74歳	100	47.1	52.9	70～74歳	9.6	10.6	8.8	-	9.0	10.2	8.1	-	10.2	10.9	9.6	-
75～79歳	100	52.9	47.1	75～79歳	13.2	13.7	12.7	50.0	13.9	15.2	12.9	-	12.5	12.3	12.6	50.0
80～84歳	100	60.4	39.6	80～84歳	12.3	11.7	12.8	-	14.8	14.3	15.3	-	9.7	9.2	10.2	-
85～89歳	100	67.2	32.8	85～89歳	9.9	7.3	12.1	-	13.3	9.4	16.5	-	6.5	5.1	7.7	-
90～94歳	100	77.5	22.5	90～94歳	5.2	3.2	6.9	-	8.0	4.5	11.0	-	2.3	1.9	2.7	-
95～99歳	100	89.0	11.0	95～99歳	1.7	0.7	2.5	-	3.0	1.1	4.6	-	0.4	0.3	0.4	-
100歳以上	100	94.4	5.6	100歳以上	0.4	0.1	0.6	-	0.7	0.2	1.2	-	0.0	-	0.1	-
不詳	100	20.0	80.0	不詳	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.1	-
65歳以上(再掲)	100	58.3	41.7	65歳以上(再掲)	60.3	56.7	63.3	50.0	70.1	64.1	75.2	-	50.4	49.3	51.3	50.0
70歳以上(再掲)	100	60.2	39.8	70歳以上(再掲)	52.3	47.3	56.4	50.0	62.8	54.8	69.5	-	41.7	39.7	43.3	50.0
80歳以上(再掲)	100	67.8	32.2	80歳以上(再掲)	29.4	23.0	34.8	-	39.8	29.4	48.5	-	19.0	16.5	21.1	-

(3) 傷病分類別

傷病大分類別に総患者数をみると、「Ⅴ精神及び行動の障害」2,761人（患者総数の14.7%）が最も多く、次いで「Ⅸ循環器系の疾患」2,616人（同13.9%）、「Ⅱ新生物」1,854人（同9.8%）の順であった。

入院患者については、「Ⅴ精神及び行動の障害」1,965人（入院患者総数の20.8%）、「Ⅸ循環器系の疾患」1,653人（同17.5%）、「Ⅳ神経系の疾患」1,135人（同12.0%）の順である。外来患者については、「ⅩⅢ筋骨格系及び結合組織の疾患」1,154人（外来患者総数の12.3%）、「Ⅸ循環器系の疾患」963人（同10.3%）、「Ⅱ新生物」906人（同9.6%）の順である（表2－5）。

表2－5 入院－外来・傷病大分類別患者数、割合（病院）

傷病大分類	総数(人)			割合(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	18,824	9,429	9,395	100.0	100.0	100.0
I 感染症及び寄生虫症	377	127	250	2.0	1.3	2.7
II 新生物	1,854	948	906	9.8	10.1	9.6
III 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	139	56	83	0.7	0.6	0.9
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	940	262	678	5.0	2.8	7.2
V 精神及び行動の障害	2,761	1,965	796	14.7	20.8	8.5
VI 神経系の疾患	1,615	1,135	480	8.6	12.0	5.1
VII 眼及び付属器の疾患	386	54	332	2.1	0.6	3.5
VIII 耳及び乳様突起の疾患	87	12	75	0.5	0.1	0.8
IX 循環器系の疾患	2,616	1,653	963	13.9	17.5	10.3
X 呼吸器系の疾患	1,147	636	511	6.1	6.7	5.4
XI 消化器系の疾患	1,101	372	729	5.8	3.9	7.8
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	426	99	327	2.3	1.0	3.5
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,643	489	1,154	8.7	5.2	12.3
XIV 尿路性器系の疾患	942	274	668	5.0	2.9	7.1
XV 妊娠、分娩及び産じょく	222	127	95	1.2	1.3	1.0
XVI 周産期に発生した病態	66	47	19	0.4	0.5	0.2
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	97	52	45	0.5	0.6	0.5
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	283	114	169	1.5	1.2	1.8
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,495	935	560	7.9	9.9	6.0
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	627	72	555	3.3	0.8	5.9

年齢階級別・傷病分類別患者数を病院でみると、0歳は「XⅥ周産期に発生した病態」、1～4歳及び5～9歳は「X呼吸器系の疾患」、10～14歳は「XⅨ損傷、中毒及びその他の外因の影響」、15歳～19歳は「Ⅵ神経系の疾患」、20～39歳及び40～64歳は「Ⅴ精神及び行動の障害」、65歳以上は「Ⅸ循環器系の疾患」が一番多い（表2－6）。

表2－6 年齢階級別・傷病分類別・患者数（病院：入院＋外来）

傷病大分類	総数	(単位:人)									
		0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～39歳	40～64歳	65歳以上	70歳以上 (再掲)	80歳以上 (再掲)
総数	18,824	203	285	244	195	223	1,638	4,683	11,348	9,838	5,542
I 感染症及び寄生虫症	377	9	16	11	7	5	48	81	199	168	92
II 新生物	1,854	1	4	9	3	6	98	549	1,184	976	435
III 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	139	1	2	5	1	1	25	32	72	61	33
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	940	2	7	8	4	3	58	292	566	485	245
V 精神及び行動の障害	2,761	1	15	24	34	37	310	1,154	1,185	887	387
VI 神経系の疾患	1,615	2	11	34	28	48	149	313	1,030	936	588
VII 眼及び付属器の疾患	386	1	2	1	2	1	13	86	280	250	129
VIII 耳及び乳様突起の疾患	87	1	3	3	2	1	7	25	45	34	17
IX 循環器系の疾患	2,616	-	1	2	2	4	22	390	2,194	1,999	1,308
X 呼吸器系の疾患	1,147	43	107	53	26	19	63	132	703	650	453
XI 消化器系の疾患	1,101	5	13	10	7	7	107	339	613	509	247
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	426	12	13	8	9	11	46	123	204	187	107
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,643	4	7	3	9	14	64	418	1,124	968	477
XIV 尿路性器系の疾患	942	6	5	3	5	6	82	220	615	529	298
XV 妊娠、分娩及び産じょく	222	4	-	-	-	2	208	8	-	-	-
XVI 周産期に発生した病態	66	53	1	4	-	-	8	-	-	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	97	9	9	16	9	7	21	19	7	6	1
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	283	3	10	5	7	6	27	61	164	147	94
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,495	1	21	27	36	36	107	299	967	870	531
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	627	45	38	18	4	9	175	142	196	176	100

(4) 病床の種類別

入院患者を病院の病床の種類別にみると、精神病床 2,101 人、結核病床 1 人、療養病床（医療保険）1,617 人、療養病床（介護保険）444 人、一般病床 5,265 人となっている。

これを傷病大分類別にみると、療養病床（医療保険と介護保険あわせて）では「Ⅸ循環器系の疾患」843 人が一番多く、次いで「Ⅵ神経系の疾患」382 人が多い。一般病床では「Ⅱ新生物」886 人が一番多く、次いで「Ⅸ循環器系の疾患」803 人、「ⅩⅨ損傷、中毒及びその他の外因の影響」777 人が多い（表 2－7）。

表 2－7 傷病大分類・病院の病床の種類別入院患者数

（単位：人）

傷病大分類	総数	精神病床	感染症 病床	結核病床	療養病床 （医療保 険）	療養病床 （介護保 険）	一般病床	不詳
総数	9,429	2,101	－	1	1,617	444	5,265	1
I 感染症及び寄生虫症	127	2	－	1	13	1	110	－
II 新生物	948	1	－	－	53	8	886	－
III 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	56	－	－	－	3	2	51	－
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	262	5	－	－	79	11	167	－
V 精神及び行動の障害	1,965	1,752	－	－	109	62	42	－
VI 神経系の疾患	1,135	315	－	－	294	88	438	－
VII 眼及び付属器の疾患	54	－	－	－	－	－	54	－
VIII 耳及び乳様突起の疾患	12	1	－	－	－	－	11	－
IX 循環器系の疾患	1,653	6	－	－	662	181	803	1
X 呼吸器系の疾患	636	1	－	－	69	6	560	－
XI 消化器系の疾患	372	1	－	－	14	2	355	－
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	99	－	－	－	19	2	78	－
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	489	－	－	－	88	17	384	－
XIV 尿路性生殖器系の疾患	274	1	－	－	58	－	215	－
XV 妊娠、分娩及び産じょく	127	－	－	－	－	－	127	－
XVI 周産期に発生した病態	47	－	－	－	－	－	47	－
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	52	－	－	－	12	－	40	－
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	114	5	－	－	13	2	94	－
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	935	11	－	－	130	17	777	－
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	72	－	－	－	1	45	26	－

(5) 二次医療圏別

患者の住所地（二次医療圏）別の患者数を人口10万人あたりの受療率で比較すると、雲南圏が最も多く、次いで隠岐圏、浜田圏、益田圏、大田圏、松江圏、出雲圏の順となっている（表2-8）。

表2-8 患者住所地（二次医療圏）・入院-外来別患者数、割合、受療率（病院）

		患者数(人)			割合(%)			受療率(人口10万対)		
		総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来
患者 住所 地	総数	18,824	9,429	9,395	100.0	100.0	100.0	2,644	1,324	1,320
	松江圏	5,698	2,928	2,770	30.3	31.1	29.5	2,283	1,173	1,110
	雲南圏	2,242	1,024	1,218	11.9	10.9	13.0	3,684	1,683	2,002
	出雲圏	3,703	1,815	1,888	19.7	19.2	20.1	2,164	1,061	1,103
	大田圏	1,598	832	766	8.5	8.8	8.2	2,740	1,427	1,313
	浜田圏	2,602	1,231	1,371	13.8	13.1	14.6	3,003	1,421	1,582
	益田圏	1,796	1,016	780	9.5	10.8	8.3	2,783	1,574	1,209
	隠岐圏	677	259	418	3.6	2.7	4.4	3,177	1,216	1,962
	県外	503	321	182	2.7	3.4	1.9	・	・	・
	不詳	5	3	2	0.0	0.0	0.0	・	・	・

また、施設所在地別の患者数をみると、松江圏が最も多く、次いで出雲圏となっており、この両圏域を合わせると県全体の約6割を占めている。（表2-9）。

表2-9 施設所在地（二次医療圏）・入院-外来別患者数、割合（病院）

		患者数(人)			割合(%)			(参考)施設の状況	
		総数	入院	外来	総数	入院	外来	施設数	病床数
施設 所在 地	総数	18,824	9,429	9,395	100.0	100.0	100.0	54	11,408
	松江圏	6,620	3,557	3,063	35.2	37.7	32.6	17	4,169
	雲南圏	1,534	606	928	8.1	6.4	9.9	5	703
	出雲圏	4,474	2,216	2,258	23.8	23.5	24.0	11	2,790
	大田圏	996	512	484	5.3	5.4	5.2	4	732
	浜田圏	2,759	1,341	1,418	14.7	14.2	15.1	10	1,543
	益田圏	1,914	1,054	860	10.2	11.2	9.2	5	1,293
	隠岐圏	527	143	384	2.8	1.5	4.1	2	178

(注)施設数・病床数は、「平成23年医療施設調査」(厚生労働省)(平成23年10月1日現在)による。

次に、圏域別に傷病分類別患者数をみると、入院で最も患者数が多い傷病は、松江、雲南、大田、浜田、隠岐圏では「Ⅴ精神及び行動の障害」であり、出雲、益田圏では「Ⅸ循環器系の疾患」である。外来で最も患者数が多い傷病は、松江、雲南、浜田圏では「Ⅷ筋骨格系及び結合組織の疾患」、出雲、大田圏では「Ⅱ新生物」、益田圏では「Ⅸ循環器系の疾患」、隠岐圏では「Ⅶ眼及び付属器の疾患」である（表２-10、表２-11）。

表２－10 患者の住所地（二次医療圏）・傷病大分類・入院－外来別患者数（病院）

傷病大分類	病院総数			松江圏			雲南圏			出雲圏			大田圏			浜田圏			益田圏			隠岐圏		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	18,316	9,105	9,211	5,698	2,928	2,770	2,242	1,024	1,218	3,703	1,815	1,888	1,598	832	766	2,602	1,231	1,371	1,796	1,016	780	677	259	418
Ⅰ 感染症及び寄生虫症	368	123	245	120	43	77	51	11	40	59	22	37	33	14	19	59	17	42	25	12	13	21	4	17
Ⅱ 新生物	1,821	926	895	575	296	279	186	96	90	425	199	226	172	76	96	244	129	115	151	90	61	68	40	28
Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	133	54	79	46	17	29	15	8	7	18	4	14	13	4	9	24	12	12	12	7	5	5	2	3
Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患	921	256	665	232	71	161	103	20	83	214	40	174	77	29	48	140	40	100	119	49	70	36	7	29
Ⅴ 精神及び行動の障害	2,656	1,889	767	793	609	184	253	199	54	545	346	199	290	212	78	407	298	109	286	183	103	82	42	40
Ⅵ 神経系の疾患	1,535	1,066	469	542	395	147	152	102	50	228	160	68	110	91	19	286	198	88	177	106	71	40	14	26
Ⅶ 眼及び付属器の疾患	382	51	331	93	12	81	109	8	101	80	13	67	5	1	4	30	5	25	13	6	7	52	6	46
Ⅷ 耳及び乳様突起の疾患	85	12	73	15	4	11	11	1	10	26	4	22	6	-	6	20	2	18	3	1	2	4	-	4
Ⅸ 循環器系の疾患	2,556	1,611	945	748	499	249	327	189	138	573	402	171	185	125	60	337	163	174	329	206	123	57	27	30
Ⅹ 呼吸器系の疾患	1,122	621	501	381	205	176	144	78	66	201	113	88	120	66	54	140	73	67	93	66	27	43	20	23
Ⅺ 消化器系の疾患	1,083	368	715	335	119	216	148	44	104	263	72	191	118	37	81	123	47	76	53	31	22	43	18	25
Ⅻ 皮膚及び皮下組織の疾患	419	95	324	112	28	84	68	15	53	68	21	47	42	11	31	55	7	48	35	9	26	39	4	35
Ⅼ 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,604	470	1,134	536	153	383	213	64	149	281	111	170	105	27	78	285	44	241	124	55	69	60	16	44
Ⅽ 泌尿器系の疾患	928	269	659	254	74	180	113	35	78	222	64	158	113	27	86	105	33	72	87	26	61	34	10	24
Ⅾ 妊娠、分娩及び産後	207	114	93	59	25	34	14	6	8	51	28	23	19	14	5	41	23	18	16	13	3	7	5	2
Ⅿ 周産期に発生した病態	56	37	19	17	11	6	3	1	2	15	10	5	6	5	1	11	8	3	3	1	2	1	1	-
ⅰ 先天奇形、変形及び染色体異常	95	51	44	40	23	17	3	1	2	17	7	10	11	4	7	17	12	5	3	2	1	4	2	2
ⅱ 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	280	113	167	95	36	59	52	23	29	43	20	23	35	17	18	28	7	21	19	5	14	8	5	3
ⅲ 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,456	909	547	488	306	182	208	123	85	267	173	94	87	56	31	183	110	73	165	106	59	58	35	23
ⅳ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	609	70	539	217	2	215	69	-	69	107	6	101	51	16	35	67	3	64	83	42	41	15	1	14

(注)病院総数は、患者住所地が県外又は不詳の者を除く数

表２－11 患者の住所地（二次医療圏）・入院－外来別傷病順位（病院）

入院	1位	2位	3位	4位	5位
総数	Ⅴ 精神及び行動の障害	Ⅸ 循環器系の疾患	Ⅵ 神経系の疾患	Ⅱ 新生物	ⅩⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響
松江圏	Ⅴ 精神及び行動の障害	Ⅸ 循環器系の疾患	Ⅵ 神経系の疾患	ⅩⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響	Ⅱ 新生物
雲南圏	Ⅴ 精神及び行動の障害	Ⅸ 循環器系の疾患	ⅩⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響	Ⅵ 神経系の疾患	Ⅱ 新生物
出雲圏	Ⅸ 循環器系の疾患	Ⅴ 精神及び行動の障害	Ⅱ 新生物	ⅩⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響	Ⅵ 神経系の疾患
大田圏	Ⅴ 精神及び行動の障害	Ⅸ 循環器系の疾患	Ⅵ 神経系の疾患	Ⅱ 新生物	Ⅹ 呼吸器系の疾患
浜田圏	Ⅴ 精神及び行動の障害	Ⅵ 神経系の疾患	Ⅸ 循環器系の疾患	Ⅱ 新生物	ⅩⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響
益田圏	Ⅸ 循環器系の疾患	Ⅴ 精神及び行動の障害	Ⅵ 神経系の疾患	ⅩⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響	Ⅱ 新生物
隠岐圏	Ⅴ 精神及び行動の障害	Ⅱ 新生物	ⅩⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響	Ⅸ 循環器系の疾患	Ⅹ 呼吸器系の疾患
外来	1位	2位	3位	4位	5位
総数	ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患	Ⅸ 循環器系の疾患	Ⅱ 新生物	Ⅴ 精神及び行動の障害	ⅩⅠ 消化器系の疾患
松江圏	ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患	Ⅱ 新生物	Ⅸ 循環器系の疾患	ⅩⅠ 消化器系の疾患	ⅩⅩⅠ健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用
雲南圏	ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患	Ⅸ 循環器系の疾患	ⅩⅠ 消化器系の疾患	ⅦⅦ 眼及び付属器の疾患	Ⅱ 新生物
出雲圏	Ⅱ 新生物	Ⅴ 精神及び行動の障害	ⅩⅠ 消化器系の疾患	ⅣⅣ 内分泌、栄養及び代謝疾患	Ⅸ 循環器系の疾患
大田圏	Ⅱ 新生物	ⅩⅣ 泌尿器系の疾患	ⅩⅠ 消化器系の疾患	Ⅴ 精神及び行動の障害	ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患
浜田圏	ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患	Ⅸ 循環器系の疾患	Ⅱ 新生物	Ⅴ 精神及び行動の障害	ⅣⅣ 内分泌、栄養及び代謝疾患
益田圏	Ⅸ 循環器系の疾患	Ⅴ 精神及び行動の障害	Ⅵ 神経系の疾患	ⅣⅣ 内分泌、栄養及び代謝疾患	ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患
隠岐圏	ⅦⅦ 眼及び付属器の疾患	ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患	Ⅴ 精神及び行動の障害	ⅩⅡ 皮膚及び皮下組織の疾患	Ⅸ 循環器系の疾患

3 患者の動き

(1) 二次医療圏間

◇入院患者

県内の病院に入院していた患者のうち、患者がその住所を有する圏域内の施設で受療した割合は、松江圏 96.6%、出雲圏 88.3%、益田圏 87.8%、浜田圏 87.3%、大田圏 57.2%、雲南圏 56.2%、隠岐圏 54.8%である。流出患者割合が最も高いのは隠岐圏の 45.2%で、このうち 36.7%が松江圏に流出している。雲南圏の流出患者割合は 43.8%でこのうち 22.0%が松江圏に、21.9%が出雲圏に流出している。大田圏の流出患者割合は 42.8%で、このうち 20.3%が出雲圏に、16.0%が浜田圏に流出している。流出患者割合が最も低いのは松江圏で 3.4%である。県外の病院に入院していた患者数については、把握できないため不明である。

一方、施設の所在地別にみた場合、入院施設と同一の圏域内に住所を有する患者の割合は、隠岐圏 99.3%、雲南圏 94.9%、大田圏 93.0%、益田圏 84.6%、浜田圏 80.2%、松江圏 79.5%、出雲圏 72.3%である。流入患者割合が最も高いのは27.7%の出雲圏で、県外からの流入が最も多いのは益田圏の9.6%である(表2-12、2-13、2-14)。

表2-12 患者住所地・施設所在地別患者数(病院・入院)

(単位:人)

患者住所地	施設所在地							
	総数	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	浜田圏	益田圏	隠岐圏
総数	9,429	3,557	606	2,216	512	1,341	1,054	143
松江圏	2,928	2,827	16	78	1	5	-	1
雲南圏	1,024	225	575	224	-	-	-	-
出雲圏	1,815	180	6	1,602	14	12	1	-
大田圏	832	51	1	169	476	133	2	-
浜田圏	1,231	17	-	68	14	1,075	57	-
益田圏	1,016	12	-	19	-	93	892	-
隠岐圏	259	95	-	21	-	1	-	142
県外	321	148	8	35	7	22	101	-
不詳	3	2	-	-	-	-	1	-

表2-13 患者住所地別受療施設所在地構成割合(病院・入院)

(単位:%)

患者住所地	施設所在地							
	総数	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	浜田圏	益田圏	隠岐圏
総数	100.0	37.7	6.4	23.5	5.4	14.2	11.2	1.5
松江圏	100.0	96.6	0.5	2.7	0.0	0.2	-	0.0
雲南圏	100.0	22.0	56.2	21.9	-	-	-	-
出雲圏	100.0	9.9	0.3	88.3	0.8	0.7	0.1	-
大田圏	100.0	6.1	0.1	20.3	57.2	16.0	0.2	-
浜田圏	100.0	1.4	-	5.5	1.1	87.3	4.6	-
益田圏	100.0	1.2	-	1.9	-	9.2	87.8	-
隠岐圏	100.0	36.7	-	8.1	-	0.4	-	54.8
県外	100.0	46.1	2.5	10.9	2.2	6.9	31.5	-

表2-14 施設所在地別患者住所構成割合(病院・入院)

(単位:%)

患者住所地	施設所在地							
	総数	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	浜田圏	益田圏	隠岐圏
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
松江圏	31.1	79.5	2.6	3.5	0.2	0.4	-	0.7
雲南圏	10.9	6.3	94.9	10.1	-	-	-	-
出雲圏	19.2	5.1	1.0	72.3	2.7	0.9	0.1	-
大田圏	8.8	1.4	0.2	7.6	93.0	9.9	0.2	-
浜田圏	13.1	0.5	-	3.1	2.7	80.2	5.4	-
益田圏	10.8	0.3	-	0.9	-	6.9	84.6	-
隠岐圏	2.7	2.7	-	0.9	-	0.1	-	99.3
県外	3.4	4.2	1.3	1.6	1.4	1.6	9.6	-
不詳	0.0	0.1	-	-	-	-	0.1	-

◇外来患者

県内の病院で外来を受療した患者のうち、患者の居住する圏域の施設で受療した割合は、松江圏 97.4 %、益田圏 96.7%、出雲圏 93.9%、浜田圏 93.3%、隠岐圏 91.1%、雲南圏 74.9%、大田圏 59.9%である。居住している圏域外の病院で受療した割合（流出患者割合）が最も高いのは大田圏 40.1%で、このうち 24.2%が出雲圏、13.4%が浜田圏に流出している。次いで流出患者割合が高いのは雲南圏の 25.1%で、14.1%が出雲圏、10.8%が松江圏に流出している。

一方、施設の所在地別にみた場合、受療施設と同一の圏域内に住所を有する患者の割合は、隠岐圏 99.2 %、雲南圏 98.3%、大田圏 94.8%、浜田圏 90.2%、松江圏 88.1%、益田圏 87.7%、出雲圏 78.5%である。圏域外に居住する患者の割合（流入患者割合）が最も高いのは 21.5%の出雲圏であり、このうち 8.2 %を大田圏、7.6%を雲南圏が占めている（表 2-15、2-16、2-17）。

表 2-15 患者住所地・施設所在地別患者数（病院・外来）

(単位:人)

患者住所地	施設所在地							
	総数	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	浜田圏	益田圏	隠岐圏
総数	9,395	3,063	928	2,258	484	1,418	860	384
松江圏	2,770	2,699	4	64	—	2	1	—
雲南圏	1,218	132	912	172	2	—	—	—
出雲圏	1,888	103	6	1,773	2	3	1	—
大田圏	766	18	1	185	459	103	—	—
浜田圏	1,371	11	—	37	10	1,279	34	—
益田圏	780	2	—	8	—	16	754	—
隠岐圏	418	34	—	3	—	—	—	381
県外	182	64	5	16	11	14	70	2
不詳	2	—	—	—	—	1	—	1

表 2-16 患者住所地別受療施設所在地構成割合（病院・外来）

(単位:%)

患者住所地	施設所在地							
	総数	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	浜田圏	益田圏	隠岐圏
総数	100.0	32.6	9.9	24.0	5.2	15.1	9.2	4.1
松江圏	100.0	97.4	0.1	2.3	—	0.1	0.0	—
雲南圏	100.0	10.8	74.9	14.1	0.2	—	—	—
出雲圏	100.0	5.5	0.3	93.9	0.1	0.2	0.1	—
大田圏	100.0	2.3	0.1	24.2	59.9	13.4	—	—
浜田圏	100.0	0.8	—	2.7	0.7	93.3	2.5	—
益田圏	100.0	0.3	—	1.0	—	2.1	96.7	—
隠岐圏	100.0	8.1	—	0.7	—	—	—	91.1
県外	100.0	35.2	2.7	8.8	6.0	7.7	38.5	1.1

表 2-17 施設所在地別患者住所構成割合（病院・外来）

(単位:%)

患者住所地	施設所在地							
	総数	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	浜田圏	益田圏	隠岐圏
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	99.7
松江圏	29.5	88.1	0.4	2.8	—	0.1	0.1	—
雲南圏	13.0	4.3	98.3	7.6	0.4	—	—	—
出雲圏	20.1	3.4	0.6	78.5	0.4	0.2	0.1	—
大田圏	8.2	0.6	0.1	8.2	94.8	7.3	—	—
浜田圏	14.6	0.4	—	1.6	2.1	90.2	4.0	—
益田圏	8.3	0.1	—	0.4	—	1.1	87.7	—
隠岐圏	4.4	1.1	—	0.1	—	—	—	99.2
県外	1.9	2.1	0.5	0.7	2.3	1.0	8.1	0.5
不詳	0.0	—	—	—	—	0.1	—	0.3

(2) 市町村別

病院で受療した入院・外来患者の移動状況を市町村別にみると、自市町村内に病院施設のない美郷町、海士町、知夫村を除くと自市町村外の医療施設へ流出した患者の割合が最も高いのは57.4%の川本町で、次いで大田市が50.9%となっている。

一方、自市町村外の医療施設へ流出した患者の割合が最も少ないのは、5.5%の松江市、次いで8.9%の出雲市となっている。

また、他市町村から流入した患者の割合が高いのは、川本町40.3%、江津市30.1%、吉賀町26.7%である（表2-18）。

表2-18 圏域・市町村別にみた受療地状況（病院：入院＋外来）

【病院、（入院＋外来）】								
(単位：人、％)								
圏域 市町村	患者住所地 別患者数	自圏 自市町村 医療施設 受療患者数	施設所在地別 患者数	流出 患者数	流入 患者数	流出 患者割合	自市町村 医療施設 受療割合	流入 患者割合
	(A)	(B)	(C)	(D):(A)-(B)	(E):(C)-(B)	(D)/(A)	(B)/(A)	(E)/(C)
総数	18,824	14,833	18,824	3,991	3,991	21.2	78.8	21.2
松江圏	5,698	5,526	6,620	172	1,094	3.0	97.0	16.5
雲南圏	2,242	1,487	1,534	755	47	33.7	66.3	3.1
出雲圏	3,703	3,375	4,474	328	1,099	8.9	91.1	24.6
大田圏	1,598	935	996	663	61	41.5	58.5	6.1
浜田圏	2,602	2,354	2,759	248	405	9.5	90.5	14.7
益田圏	1,796	1,646	1,914	150	268	8.4	91.6	14.0
隠岐圏	677	523	527	154	4	22.7	77.3	0.8
松江市	4,338	4,099	5,183	239	1,084	5.5	94.5	20.9
浜田市	1,657	1,428	1,841	229	413	13.8	86.2	22.4
出雲市	3,703	3,375	4,474	328	1,099	8.9	91.1	24.6
益田市	1,192	1,028	1,401	164	373	13.8	86.2	26.6
大田市	992	487	598	505	111	50.9	49.1	18.6
安来市	1,360	1,238	1,437	122	199	9.0	91.0	13.8
江津市	945	642	918	303	276	32.1	67.9	30.1
雲南市	1,471	876	1,028	595	152	40.4	59.6	14.8
奥出雲町	487	255	283	232	28	47.6	52.4	9.9
飯南町	284	204	223	80	19	28.2	71.8	8.5
川本町	209	89	149	120	60	57.4	42.6	40.3
美郷町	122	・	・	122	・	100.0	・	・
邑南町	275	198	249	77	51	28.0	72.0	20.5
津和野町	262	129	138	133	9	50.8	49.2	6.5
吉賀町	342	275	375	67	100	19.6	80.4	26.7
海士町	40	・	・	40	・	100.0	・	・
西ノ島町	112	78	89	34	11	30.4	69.6	12.4
知夫村	10	・	・	10	・	100.0	・	・
隠岐の島町	515	432	438	83	6	16.1	83.9	1.4
県外	503	－	・	・	・	・	・	・
不詳	5	－	・	・	・	・	・	・

4 入院患者

病院に入院している患者を入院の状況別の構成割合でみると、「生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する」が最も多く、入院患者総数の 75.2%を占める。次いで「受け入れ条件が整えば退院可能」が 12.9%、「生命の危険がある」が 7.6%、「その他」が 3.4%である。

「生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する」の割合が最も高いのは 5～9 歳（86.5%）で、「生命の危険がある」の割合が最も高いのは 1～4 歳（27.0%）であった（表 2-19、表 2-20）。

表 2-19 入院の状況・年齢階級別患者数（病院）

(単位:人)

年齢階級	総数	生命の危険は少ない	生命の危険がある	受け入れ条件が整えば退院可能	検査入院	その他	不詳
総数	9,429	7,094	714	1,213	89	317	2
0歳	81	64	14	1	1	1	-
1歳	17	14	3	-	-	-	-
2歳	7	5	2	-	-	-	-
3歳	5	5	-	-	-	-	-
4歳	8	3	5	-	-	-	-
1～4歳	37	27	10	-	-	-	-
5～9歳	37	32	4	-	1	-	-
10～14歳	48	27	7	11	-	3	-
15～19歳	74	51	7	10	-	6	-
20～24歳	79	53	2	11	-	13	-
25～29歳	128	101	8	6	-	13	-
30～34歳	177	116	11	24	-	26	-
35～39歳	169	129	8	14	1	17	-
40～44歳	171	117	11	31	-	12	-
45～49歳	200	150	10	27	-	13	-
50～54歳	282	212	13	38	5	14	-
55～59歳	519	403	23	68	6	19	-
60～64歳	812	626	54	102	12	18	-
65～69歳	691	511	46	103	18	13	-
70～74歳	853	653	57	116	8	19	-
75～79歳	1,313	985	119	166	17	24	2
80～84歳	1,397	1,092	105	163	11	26	-
85～89歳	1,253	922	112	172	5	42	-
90～94歳	756	569	70	88	4	25	-
95～99歳	284	207	16	52	-	9	-
100歳以上	67	46	7	10	-	4	-
不詳	1	1	-	-	-	-	-
65歳以上(再掲)	6,614	4,985	532	870	63	162	2
70歳以上(再掲)	5,923	4,474	486	767	45	149	2
80歳以上(再掲)	3,757	2,836	310	485	20	106	-

表 2-20 入院の状況・年齢階級別割合（病院）

(単位:%)

年齢階級	総数	生命の危険は少ない	生命の危険がある	受け入れ条件が整えば退院可能	検査入院	その他	不詳
総数	100.0	75.2	7.6	12.9	0.9	3.4	0.0
0歳	100.0	79.0	17.3	1.2	1.2	1.2	-
1歳	100.0	82.4	17.6	-	-	-	-
2歳	100.0	71.4	28.6	-	-	-	-
3歳	100.0	100.0	-	-	-	-	-
4歳	100.0	37.5	62.5	-	-	-	-
1～4歳	100.0	73.0	27.0	-	-	-	-
5～9歳	100.0	86.5	10.8	-	2.7	-	-
10～14歳	100.0	56.3	14.6	22.9	-	6.3	-
15～19歳	100.0	68.9	9.5	13.5	-	8.1	-
20～24歳	100.0	67.1	2.5	13.9	-	16.5	-
25～29歳	100.0	78.9	6.3	4.7	-	10.2	-
30～34歳	100.0	65.5	6.2	13.6	-	14.7	-
35～39歳	100.0	76.3	4.7	8.3	0.6	10.1	-
40～44歳	100.0	68.4	6.4	18.1	-	7.0	-
45～49歳	100.0	75.0	5.0	13.5	-	6.5	-
50～54歳	100.0	75.2	4.6	13.5	1.8	5.0	-
55～59歳	100.0	77.6	4.4	13.1	1.2	3.7	-
60～64歳	100.0	77.1	6.7	12.6	1.5	2.2	-
65～69歳	100.0	74.0	6.7	14.9	2.6	1.9	-
70～74歳	100.0	76.6	6.7	13.6	0.9	2.2	-
75～79歳	100.0	75.0	9.1	12.6	1.3	1.8	0.2
80～84歳	100.0	78.2	7.5	11.7	0.8	1.9	-
85～89歳	100.0	73.6	8.9	13.7	0.4	3.4	-
90～94歳	100.0	75.3	9.3	11.6	0.5	3.3	-
95～99歳	100.0	72.9	5.6	18.3	-	3.2	-
100歳以上	100.0	68.7	10.4	14.9	-	6.0	-
不詳	100.0	100.0	-	-	-	-	-
65歳以上(再掲)	100.0	75.4	8.0	13.2	1.0	2.4	0.0
70歳以上(再掲)	100.0	75.5	8.2	12.9	0.8	2.5	0.0
80歳以上(再掲)	100.0	75.5	8.3	12.9	0.5	2.8	-

病院に入院している患者の入院の状況別を傷病大分類別にみると、「生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する」の割合が高い傷病は、「Ⅷ耳及び乳様突起の疾患」で 91.7%である。

また、「生命の危険がある」の割合が高い傷病は、「Ⅰ感染症及び寄生虫症」（18.9%）、「Ⅹ呼吸器系の疾患」（17.0%）、「Ⅲ血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害」（16.1%）、「Ⅱ新生物」（12.0%）、「ⅩⅦ先天奇形、変形および染色体異常」（11.5%）である。「受け入れ条件が整えば退院可能」の割合が高い傷病は、「Ⅴ精神及び行動の障害」（29.9%）、次いで「Ⅵ神経系の疾患」（16.9%）となっている。「検査入院」の割合が高い傷病は、「Ⅷ耳及び乳様突起の疾患」（8.3%）であった（表 2-21、表 2-22）。

表 2-21 入院の状況・傷病分類別患者数（病院）

(単位:人)

疾病大分類	総数	生命の危険 は少ない	生命の危険 がある	受け入れ条 件が整えば 退院可能	検査入院	その他	不詳
総数	9,429	7,094	714	1,213	89	317	2
I 感染症及び寄生虫症	127	93	24	6	-	4	-
II 新生物	948	756	114	15	35	28	-
III 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	56	42	9	5	-	-	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	262	224	21	10	2	5	-
V 精神及び行動の障害	1,965	1,280	53	588	-	44	-
VI 神経系の疾患	1,135	770	76	192	5	92	-
VII 眼及び付属器の疾患	54	43	-	-	-	11	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	12	11	-	-	1	-	-
IX 循環器系の疾患	1,653	1,296	151	184	19	3	-
X 呼吸器系の疾患	636	487	108	36	-	4	1
XI 消化器系の疾患	372	303	37	16	9	6	1
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	99	82	7	6	1	3	-
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	489	430	12	39	4	4	-
XIV 尿路器系の疾患	274	229	22	14	3	6	-
XV 妊娠、分娩及び産じょく	127	91	8	-	-	28	-
XVI 周産期に発生した病態	47	42	3	1	-	1	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	52	41	6	1	-	4	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	114	78	11	15	4	6	-
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	935	783	50	81	6	15	-
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	72	13	2	4	-	53	-

表 2-22 入院の状況・傷病分類別患者割合（病院）

(単位:%)

疾病大分類	総数	生命の危険 は少ない	生命の危険 がある	受け入れ条 件が整えば 退院可能	検査入院	その他	不詳
総数	100.0	75.2	7.6	12.9	0.9	3.4	0.0
I 感染症及び寄生虫症	100.0	73.2	18.9	4.7	-	3.1	-
II 新生物	100.0	79.7	12.0	1.6	3.7	3.0	-
III 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	100.0	75.0	16.1	8.9	-	-	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	100.0	85.5	8.0	3.8	0.8	1.9	-
V 精神及び行動の障害	100.0	65.1	2.7	29.9	-	2.2	-
VI 神経系の疾患	100.0	67.8	6.7	16.9	0.4	8.1	-
VII 眼及び付属器の疾患	100.0	79.6	-	-	-	20.4	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	100.0	91.7	-	-	8.3	-	-
IX 循環器系の疾患	100.0	78.4	9.1	11.1	1.1	0.2	-
X 呼吸器系の疾患	100.0	76.6	17.0	5.7	-	0.6	0.2
XI 消化器系の疾患	100.0	81.5	9.9	4.3	2.4	1.6	0.3
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	100.0	82.8	7.1	6.1	1.0	3.0	-
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	100.0	87.9	2.5	8.0	0.8	0.8	-
XIV 尿路器系の疾患	100.0	83.6	8.0	5.1	1.1	2.2	-
XV 妊娠、分娩及び産じょく	100.0	71.7	6.3	-	-	22.0	-
XVI 周産期に発生した病態	100.0	89.4	6.4	2.1	-	2.1	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	100.0	78.8	11.5	1.9	-	7.7	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	100.0	68.4	9.6	13.2	3.5	5.3	-
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	100.0	83.7	5.3	8.7	0.6	1.6	-
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	100.0	18.1	2.8	5.6	-	73.6	-

5 【参考】退院患者

退院患者について、今回、独自調査を行っていないため、厚生労働省が実施した「平成23年患者調査」の結果を掲載する。

(1) 推計退院患者数

平成23年9月の1か月間に病院から退院した推計患者は8.9千人であった（表2-23）。

傷病分類別にみると、「Ⅱ新生物」が1.7千人で最も多く、次いで「X呼吸器系の疾患」「XI 消化器系の疾患」「XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響」がそれぞれ0.9千人となっている（表2-24）。

表2-23 推計退院患者数、性・年齢階級別（病院）

(単位:千人)

年齢階級	総数	男	女
総数	8.9	4.4	4.5
0～4歳	0.5	0.3	0.2
5～14歳	0.2	0.1	0.1
15～24歳	0.3	0.1	0.2
25～34歳	0.6	0.1	0.4
35～44歳	0.5	0.2	0.3
45～54歳	0.5	0.3	0.2
55～64歳	1.2	0.7	0.5
65～74歳	1.5	0.9	0.6
75～84歳	2.3	1.2	1.1
85歳以上	1.4	0.5	0.9
不詳	0	0	0
65歳以上(再掲)	5.2	2.6	2.6
70歳以上(再掲)	4.5	2.1	2.3
75歳以上(再掲)	3.7	1.7	2

表2-24 推計退院患者数、傷病分類別（病院）

(単位:千人)

傷病大分類	総数
総数	8.9
I 感染症及び寄生虫症	0.3
II 新生物	1.7
悪性新生物(再掲)	1.5
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.1
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	0.2
V 精神及び行動の障害	0.3
VI 神経系の疾患	0.3
VII 眼及び付属器の疾患	0.3
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0
IX 循環器系の疾患	1
心疾患(高血圧性のものを除く)(再掲)	0.5
脳血管疾患(再掲)	0.4
X 呼吸器系の疾患	0.9
X I 消化器系の疾患	0.9
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	0.2
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	0.4
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	0.4
X V 妊娠、分娩及び産じょく	0.4
X VI 周産期に発生した病態	0.1
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	0
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.2
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	0.9
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.1

資料:「平成23年患者調査」(厚生労働省大臣官房統計情報部)

(2) 平均在院日数

平成 23 年 9 月の 1 か月間に病院を退院した患者の平均在院日数は 31.9 日である。年齢階級別にみると、85 歳以上が最も長く 60.7 日で、次いで 65～74 歳の 41.1 日である（表 2-25）。

傷病大分類別にみると、「Ⅴ精神及び行動の障害」が 290.2 日で最も長く、次いで「Ⅵ神経系の疾患」が 66 日となっている。また、悪性新生物は 21.9 日、心疾患（高血圧性のものを除く）は 23.6 日、脳血管疾患は 76.6 日となっている（表 2-26）。

表 2-25 退院患者平均在院日数、性・年齢階級別（病院）

（単位：日）

年齢階級	総数	男	女
総数	31.9	30.7	33.1
0～4歳	8.2	10.2	5.7
5～14歳	9.2	9.3	9
15～24歳	12.8	13.3	12.4
25～34歳	12.1	16.6	11
35～44歳	13.3	12.1	14
45～54歳	22.8	20.8	25.3
55～64歳	28.5	33.7	20.4
65～74歳	41.1	40	42.7
75～84歳	30	28.3	32
85歳以上	60.7	51.1	66
不詳	11.2	21	2
65歳以上(再掲)	41.6	36.8	46.3
70歳以上(再掲)	38.3	31.7	44.4
75歳以上(再掲)	41.8	35.1	47.4

表 2-26 退院患者平均在院日数、傷病分類別（病院）

（単位：日）

傷病大分類	総数
総数	31.9
I 感染症及び寄生虫症	13.3
II 新生物	20.6
悪性新生物(再掲)	21.9
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	23.7
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	26.9
V 精神及び行動の障害	290.2
VI 神経系の疾患	66
VII 眼及び付属器の疾患	5.1
VIII 耳及び乳様突起の疾患	9.8
IX 循環器系の疾患	42.8
心疾患(高血圧性のものを除く)(再掲)	23.6
脳血管疾患(再掲)	76.6
X 呼吸器系の疾患	18.2
X I 消化器系の疾患	13
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	32.4
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	35.8
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	15.8
X V 妊娠、分娩及び産じょく	9
X VI 周産期に発生した病態	10.9
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	36.2
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	12.9
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	29
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	6.9

資料：「平成23年患者調査」(厚生労働省大臣官房統計情報部)